

10/25
水曜

炊き出しに400人 東京・東池袋

投票口まで約一週間となりた23日、生活困窮者支援をするNPO法人「TENNOHASI」が東京都豊島区の東池袋中央公園で定期的に行なう炊き出しには約400人が並びました。

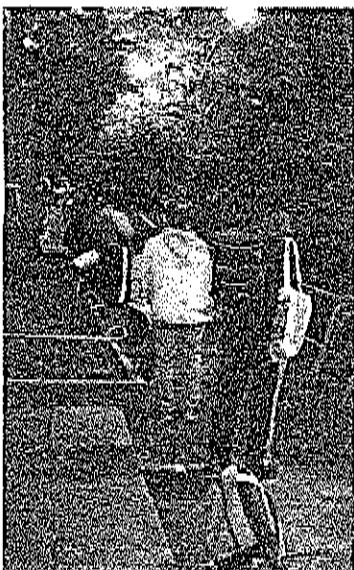
寒風が吹くなか、1時間以上も前からじっと並ぶ人たち。男性が多いなか女性や若者の姿もあります。

51歳の女性は「足が悪くなつて働けない」と話します。収入は親族からの月5万円の援助だけ。「まだものった食料を

何日かに分けて温めて食べている」といいます。幼いころから習っていた楽器の奏者の資格もありますが、「今は体も動かないし、楽器もない。また弾ける日が来るといですね」としうやきます。

「家を失い一年近い、今は段ボール暮らし」だるから、「受けたくない」といいます。

「この日、400食の弁当と追加した30食の牛丼がすべてなくなりました。」「TENNOHASI」の清野監司事務局長は「400人を超えたのはリーマン・ショック後の2009年以来。過去最多の勢いが続いている」と危機感を露わせます。



食料配布に並ぶ人たち=23日夕方、東京都豊島区

トを借りて、体を治して、また働きたい。住所がないため選挙の投票券が手元にありません。「ここに投票箱を置いたところ建業作業員として働いてきました。大手ゼネコンの「下請けの下請け」で腰を悪くして働けなくなつた。会社の寮も居られなくなりた」。生活保護は親族に問い合わせる「扶養照会があるから、受けたくない」といいます。政府に望むことを尋ねると「給付金を出してほしい。アパートを借りて、生活保護も受けたい。政治も変わらなければなりません。新たな人がみんな投票に行つたら政治も変わる」の日、400食の弁当と追加した30食の牛丼がすべてなくなりました。」「TENNOHASI」の清野監司事務局長は「400人を超えたのはリーマン・ショック後の2009年以来。過去最多の勢いが続いている」と危機感を露わせます。